
昼休みの惨事

やまゆ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

昼休みの惨事

【Nコード】

N3242A

【作者名】

やまゆ

【あらすじ】

平和な女子校で、みんな仲良しだったんです。あの日までは…

（前書き）

初めてなんです投稿とか、駄文でごめんなさい。ドキドキですよ。もう！

あなたがっ！最初の読者ですっ！
ちなみに実話です…

「やめてええ！！見ないでええ！！！！何も書いてないからっ！！な
くんにもっ！！だから見ないでええ！！！！」

普段はおとなしくて人の良いコルダが、今日は暴走機関車の様に何
かを必死に隠している。

「何も書いてないなら見せなよ！！ぬうくん……」
手を伸ばして詰め寄るギタ山。

「そっやでっ？見せずは一時の恥、見せるは一生の恥やで！？」
とオニツチ。

「Σ(。D。;) 見せないよ！？恥なら一生見せないよ！！！？」
激しい3人の争奪戦を、一人ジョニ子は謎めいた薄笑いを浮かべて
事の成り行きを見守っている

コルダが胸にしっかりと抱えているのは何のへんてつも無いノート。
ただし、表紙に

“開けるな危険！！”

と書いてある事をのぞいては…。

どうやらコルダは乙女ノートのを見つけてしまったようだ。

漫画やゲーム好きな乙女達がポエムやら日記やら書き記して、自分
はすっかり忘れた頃に家族に見付かってすんげえ恥ずかしい思いを
しちゃったりするアレだ。

しかしコルダは後々訪れるであろう家族崩壊の危機を心配する心の
余裕はないようだ。

今まさに、彼女は人生最大の危機に瀕している！！

「ダメダメ駄目駄目っ！！！！このノートだけはダメッ、全裸で校
内一周するよりダメッ！！これは甘くて危険すぎるから……あっ！！
！？」

「っしやあっー！！」一瞬の間を置いてノートを奪い取ったのは才

ニツチだ！

「ぬおおオさせるくああつ！！！」

「あべしッ！」

華麗な回し蹴りがオニツチを吹っ飛ばし、空に舞ったノートを豪速急でコルダが奪取した。

「殺る気や！、奴は読まれる前に、殺る気やでえ！」

「しかし、6年間いつも一緒の仲良しさんのオニツチとを吹っ飛ばすとは…、これが、コスモの力か…！！」

いつの間にか解説を始めるジヨニ子とギタ山。もうコルダは後には引けなかった。朝、数学のノートと間違える事さえなければ…

もう、もどれない遠い過去がふとよぎる。

とにかく、読まれる訳には行かない。このノートっ…このっ…ってあれっ！？あれ！！！？

コルダが握り締めたノートは、

“ 徳川家の秘密 ”

に変わっていた。

「フッ…、まだまだ…詰めが甘いな…ガハッ！！！」

もはやボロ雑巾と化したオニツチが、ヨロヨロと身を起こし、腹からノートを取り出した。

「そうかつ！！吹っ飛ばされる直前にノートをすりかえたんや！！！」

「しかもそのノートで急所をガードし致命傷を避けるとは…！！！！さすが紅き鉄パイプのオニツチと呼ばれるだけの事はあるぜ…」

「嫌ああ返してエエエエ！！…ピギヤッ！」

再びオニツチに突進しようとするコルダの足をギタ山がひっかけ、コルダは派手にすっ転んだ

「てこずらせやがって…お礼に音読の刑だ…さあて、何が書いてあるのかな…ふふふ」ピッコロ大魔王のような邪悪な笑みを浮かべ、オニツチの亡骸からノートをもぎ取るジヨニ子。ってオニツチ燃え尽きてるー！！！？

「何が書いてあるのかな？ポエムかな？自作漫画かな？ワクワク
…」

「そう急かすなギタ山よ、楽しい事は、じっくりジラせばジラすほど旨味を増すものだ…熟したワインの様な…!!」

泣き叫ぶコルダを手早く荒縄で縛りあげジョニ子はページをめくった…。

中には文字がビッシリ、どうやら自作小説らしい。随所にイラストが描かれている。あと、アニソンの歌詞とかも書いてある。

…身に覚えのある読者も多いのでは？

「なにになに…？」

『いいのか…？』『うん…君は、やさしいから。僕の総てを見てほしいんだ…。』『ユウヤ…』『リュウト君…』そして二人の体と心はバターがとろける様…に…重なりあ…い……？…なんじゃこりや？」

「ジ、ジョニ子、こここれってましかブブブブウオウイズラヴってやつなんじゃ…？」

「イヒエエエエアツ!!??」

コルダはプチ乙女なんかじゃなかった。本物の、あっちの世界の人だった。ギタ子は思った。ジョニ子も思った。虫の息のオニツチも思った。しかし言葉にはできなかった

「い、いいんじゃないかな？びっ、びいえる系ってゆんでしょ？わわわわ私はっ、いいとヲもうよっ!？」

「うっうん!!…わっ、私も嫌だなとか思ってたけどいや思ってたナイけどもここ女子校だしだから別になんてことナイッていうかむしろイイツて!!」

「…うっ、うわああああーん!!…!!」

「ああわゝコルダ泣かないでエー!!…!!」

嗚呼…少女達の必死のフオーは虚しく天井に吸い込まれて行くばかりであつた…

（後書き）

こんなところまで読んでくれてありがとう。大好きじゃあー！
！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3242a/>

昼休みの惨事

2010年12月29日23時49分発行